

第1回
(仮称)干潟地域小学校
学校再編代表者会議
議事録

日 時：令和6年1月22日（月）
場 所：ひかた市民センター 1階ホール

第1回 (仮称)干潟地域小学校 学校再編代表者会議

日 時 令和6年1月22日 (月) 午後6時30分

場 所 ひかた市民センター 1階ホール

議事日程

- 1 開 会
- 2 委嘱書交付
- 3 教育長あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 代表者会議の設置・進め方について
- 6 会長、副会長の選出
- 7 議 題
 - (1) 議案第1号 学校再編の可否について (諮問)
- 8 その他
- 9 閉 会

出席委員 (22名)

保護者代表

中和小PTA	金親 大	中和小PTA	木内 貴之
中和小PTA	越川 聡子	萬歳小PTA	石井 幸恵
萬歳小PTA	細谷 素子	古城小PTA	林 禎和
古城小PTA	實川 博之	古城小PTA	大木いずみ

地域住民代表

中2区区長	菅谷 文行	萬歳3区区長	椎名 清治
西2・9区区長	米本 一章		

学校教育関係者

中和小校長	朝倉真由美	萬歳小校長	坂中 正人
古城小校長	梅津 清治		

福祉関係者・青少年育成関係者

青少年相談員 小久保和宏

民生委員 大湊 一文

青少年相談員 秋葉 教子

その他教育委員会が必要と認める者

千 潟 町 中 央
保 育 園 保 護 者 高木奈保子

中 和 小 学 校 員 玉井 正博
評 議

ま ん ざ い 保 育 所
保 護 者 石井 真也

ま ん ざ い 保 育 所
保 護 者 花香 真菜

古 城 小 学 校
運 営 協 議 会 委 員 金杉 光信

欠席委員（2名）

萬歳小PTA 飛田 雄司

古 城 保 育 所 小角 早苗
保 護 者

事務局職員出席者

教 育 長 向後 依明

教育総務課長 向後 稔

学校教育指導室長 臼倉 浩

教育総務課長 江ヶ寄基道
教 育 総 務 課 長

教育総務課長 八馬 裕樹

施設班長 石毛 厚史
教 育 総 務 課 長

学校再編室幹事 八木 幸生

校再編室査 林 義樹
教 育 総 務 課 長

学校再編室査 椎名 倫史

傍聴者 7名

1 開 会

○事務局 本日は大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

それでは定刻となりましたので、これより（仮称）干潟地域小学校学校再編代表者会議を開催させていただきます。

なお、本日の審議会は「旭市審議会等の会議の公開に関する要綱」第3条により公開するものとなっております。

傍聴人の皆様をお願いいたします。本日の会議は受付でお渡ししました傍聴要領を守っていただきますようお願いいたします。

なお、会議の進行を妨げることがあった場合には、退場していただくこともありますので、ご注意くださいようお願いいたします。また、傍聴要領に記載のとおり、会場での写真撮影、録画、録音等を行わないようご注意ください。携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りになるかマナーモードに設定していただくようお願いいたします。

2 委嘱書交付

○事務局 それでは、次第に沿って進めていきます。2、委嘱書交付ということで、はじめに代表者会議の委員にご承諾を頂きました皆様へ、教育長より委嘱書を交付させていただきます。

委嘱書の交付につきましては、席の順にお伺いしますので、そのままお待ちください。

○委員 この代表者会議の位置づけというものを、私どもにわかりやすく説明していただければありがたいんですけども。ちょっと読んだだけだと理解ができなかったもので、条例等を含めて説明していただくと、安心してこの後議論ができるかと思うんですが、いかがでしょうか。

○事務局 資料の2をご覧ください。この後詳しくは説明いたしますが、今までどの大きな違いとしましては、旭市教育委員会の諮問に応じて、次のことを調査審議して答申するという会議となります。所掌事務についてはお読みください。答申するときは採決にて行います。こちらが地域検討会議とは大きく違うかなと思います。

この後また詳しく説明がありますので、よろしいでしょうか。

では、委嘱書の交付になります。

（教育長より委嘱書交付）

3 教育長あいさつ

○事務局 続きまして、会議の開催にあたり、教育長より一言ご挨拶を申し上げます。

○教育長 本日は、ご多用の中、（仮称）干潟地域小学校学校再編代表者会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

また、委員の皆様におかれましては、各地区の地域検討会議に引き続き、ご協力いただき感謝を申し上げます。

おかげさまで、本日、第1回目の代表者会議を迎えることができました。

この代表者会議では、統合の可否を含めて、より具体的な内容について話し合いを進めていただくこととなります。子ども達のための未来、新しい学校づくりに向けて、それぞれのお立場や地域、保護者の皆様の思いなど、様々な意見を頂戴しながら、よりよい方向に進めていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

教育委員会では、旭市の教育に関する大綱に掲げてありますように「旭に学び、育ち、旭を誇りに思うひとづくり」の基本理念のもと、子ども達の元気な笑顔と活気あふれる学校を継続的に運営できる環境づくりを目指しております。旭市の未来を拓く子ども達のため、ぜひ皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、第1回代表者会議開催にあたっての挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしく願いします。

4 委員紹介

○事務局 それでは、このたび御就任いただきました委員の皆様方を、お配りしました資料1の順番でご紹介させていただきます。

（委員紹介）

○事務局 なお、皆様の任期につきましては、本日から始まり、この会議に諮られた諮問事項に対して調査審議していただき、答申がまとまるまでとなっておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、当審議会の事務を所管しております教育総務課の職員を紹介させていただきます。

（教育総務課職員紹介）

5 代表者会議の設置・進め方について

○事務局 それでは、次第の5、代表者会議の設置・進め方について、担当よりご説明させていただきます。

○事務局 (資料説明)

○事務局 それでは、今の説明に対して質問等がありましたらお願いします。

○委員 今回、各学校の代表という形で選ばれているんですけども、代表者会議条例のどの条項に当たるもので決まったのでしょうか。特段私が見る限りこの区割りというものがわからなかったもので、詳しく説明していただくと助かります。

○事務局 区割りというのは、各学校の人数のバランスのお話ですか。それともこの条例に書かれてる、条例の第5条の(1)から(6)の人数割りのお話ですか。

○委員 古城小学校、中和小学校、萬歳小学校で3地域から代表者を選出しているじゃないですか。この3地域から代表者選出する根拠っていうところは、この条文のどこになるのかなというふうに思いまして、ちょっとお聞かせ願えると助かるかなと思ってお伺いいたしました。

○事務局 資料3の旭市学校再編代表者会議条例の第5条第2項の(1)から(6)ということで、委員さんそれぞれの役職が分かれていると思います。その最初に、再編対象校のっていうところがありますので、再編対象校と言いますと3校になりますので、それぞれその中から委員さんを選びましょうということで、この条文の中に記載しております。

○委員 ありがとうございます。続けて質問させていただきたいのですが、我々これから小学校の統廃合っていうのを議論していくこととなります。どうもこの条文で見ると、平成17年の旭市条例第132号に規定される、要は小学校及び中学校みたいなところで合併、そこを区割りの根拠とするっていう、そういう理解で間違いないですか。

分かりやすいようにざっくりばらんに説明させていただきますと、我々干潟地域は他地域に先んじて小学校の統廃合をすることになります。その結果、学校数が減ることになります。そうすると、その減った学校数を元に地区割りをされて、この代表委員数を決定されるとすると、我々干潟地域は大きく議席数を減らすような結果となるのではないかということ、大変心配しております。

ですので、この統廃合っていうのは基本的には住民同士の引っ張り合いみたいなことになってはいけないので、ある程度議論っていうのは公平性を期してやらないといけないものだというふうに思っております。

ですので、この区割りっていうのは事実上、どういうふうに決するかっていうところを左

右する重要な要素になってくると考えています。その区割りに関する規定がちょっとこの条例では何とも言えない。

実を言いますと、先日何名かの議員さんとお話すると、いや、うちの方は小学校が3校で中学校が1校だから、中学校統合する時は4校の議席があるよ。で、向こうは2校だからみたいなことを言う人もいれば、うちは統廃合を先にするから、うちは学校数が減って3校が1校になって、中学校が1校だから、それで議席数が出てというような話をされる市議会議員さんもおられました。

この条例が市議会議員さんによっても解釈の仕方がどうもいろいろだなというふうに思いまして、一度この機会に、この区割りというのがどのような形で行われるか、はっきりさせておいた方が良いのではないかなと思ひまして、ご質問させていただきました。

○事務局 今回の学校再編じゃなくて、次の例えば中学校の再編になった時に、その議席数が減ってしまうんじゃないかというようなご質問だったと思いますが、中学校の統合は中学校同士の統合なので、小学校の数は関係ないと思います。だから仮に小学校が3校が1校になったとしても、こっちの小学校は1校で、そちらが小学校3校4校でも小学校の数は関係なく、中学校同士の統合ですので、その数は関係ないということでご理解いただきたいと思います。

○委員 ありがとうございます。そうすると、例えば我々の今回の統廃合の結果っていうのが、この代表委員の議席数には影響しないというふうに考えてよいということですかね。

○事務局 はい、おっしゃる通りです。あくまでも中学校の数で区割りをしていくことになりますので、よろしく願いいたします。

○委員 重ねて大変恐縮なんですけれども、例えば北中学校を想定した場合は、旭第二中学校から12名、干潟中学校から12名といった代表委員の選出になるというような理解でよろしいですか。

○事務局 条例の中で25名以内っていうことですので、人数は12対12かは分かりませんが、対等というか、同じ人数でなるべくバランスを取って委員さんの選出をしていくということになります。

○事務局 そのほか質問等ありますでしょうか。

(発言する人なし)

6 会長、副会長の選出

○事務局 それでは、次第の6、会長の選出に入らせていただきます。

資料3、旭市学校再編代表者会議条例第6条をご覧ください。第6条の規定により「会長及び副会長は委員の互選によりこれを定める」とあります。自薦・他薦は問いません。どなたかいらっしゃいますでしょうか。

(発言する人なし)

○事務局 どなたもいらっしゃらないので、事務局から提案させていただいてもよろしいでしょうか。

ご了承いただけたと受け取り、事務局より提案させていただきます。

人数は会長を1名、副会長を2名とさせていただき、各地域検討会議の会長でいらっしゃいました、中和小学校PTA会長の金親大委員、萬歳小学校PTA会長の飛田雄司委員、古城小学校PTA会長の林禎和委員の中から会長と副会長の選出をお願いしたいと存じます。なお、飛田委員にはご了承をいただいております。

委員の皆様いかがでしょうか。

(発言する人なし)

それでは、皆様ご異議がないようですので、ここで10分間の休憩を入れさせていただきながら、恐れ入りますが、金親委員、林委員はこの間にご相談をお願いします。それでは、7時25分まで休憩とさせていただきます。

(休憩)

○事務局 それでは会議を再開させていただきます。

先ほど2名の委員で相談していただいた結果、会長に古城小学校PTA会長の林委員、副会長に中和小学校PTA会長の金親委員と萬歳小学校PTA会長の飛田委員でお願いしたいと思えます。

会長の林委員、中央の席へ移動をお願いいたします。

それでは、ただいま会長に選出されました林委員より一言ご挨拶をお願いしたいと存じます。

○会長 議事のほうは円滑に進めたいと思えますけども、教育委員会の力を借りながらやっていきたいと思えますので、よろしくをお願いします。

○事務局 ありがとうございます。

本日、会長と副会長が決定しましたので、教育委員会より次第7の議題案ということで、2つの議題を記載しております。

初めに、議案第1号、学校再編の可否について、お配りしました諮問書の案をご覧ください。なお、原本は会長へお渡ししております。諮問書のとおり「中和小学校、萬歳小学校、古城小学校を統合することの可否」についてご審議のほどよろしく願いいたします。

これ以降の議事につきましては、旭市学校再編代表者会議条例第7条の規定により、会長が議長となります。それでは林会長よろしく願いいたします。

7 議 題

(1) 議案第1号 学校再編の可否について（諮問）

○会長 それでは、議事に入らせていただきたいと思います。

教育委員会から諮問がありました、議案第1号、学校再編の可否について、本日の会議で審議することとしてよろしいでしょうか。

(発言する人なし)

了承いただいたと判断しまして、議案第1号について審議を進めたいと思います。

○委員 これ結論はもう今日の会議で出すんですか。

○会長 それはこれからの意見もあるので、まずは意見を聞きたいと思います。

○委員 これから3校の代表者が話し合っ決めていくと思うんですけど、地域の要望として預かっているものがあるので、読み上げさせていただきます。

要望の一つ目として、代表者会議の委員による古城小学校の視察。この代表者会議の賛否によって古城小学校の統合っていうのが決まると思うんですけど、まず一度現地に行って、現状をよく確認して、安全対策とかいろいろあると思うんですけど、まずその必要があるのではないかということが一つ。

それから二つ目、この代表者委員の任期、先ほどありましたけど、年度末ですのでこれから委員が変わるかと思うんです。私も変わる予定なんですけれども、変わると分かっている、要は先の責任がないわけなんですよね。そこで果たして決を取っちゃっていいのかどうか。なので、年度が始まった段階で決を取る、ちょっと採決の決定時期、もうちょっと先延ばししていただきたいなっていうのがあります。

それから三つ目として、この統合の責任者である市長の将来のビジョンを是非聞かせていただきたい。市長が旭市の子ども達の教育また教育環境、それについてどう考えているのか、ぜひこの代表者会議で説明していただきたいなっていうのがあります。以上です。

○会長 事務局説明よろしいでしょうか。

○事務局　今いただいた要望は一旦お預かりさせていただきまして、先に資料の説明をさせていただきますけれども、よろしいでしょうか。

(資料説明)

○事務局　先ほどいただいた3つの点につきまして、最初の現地視察と最後の市長のビジョンということにつきましては、ちょっと事務局で預らせていただきまして、この先対応するか検討させていただきたいと思います。

それと任期についてということで、4月で委員さんの肩書が変わってしまうということで、ご心配の点があるかと思えます。一応委嘱は皆さん個人にさせていただいているところですので、決定の時期というものは皆さんの中で話し合ってください、その時期というものを決めていただくということが必要かと思えますので、その点よろしくお願ひします。

○委員　先ほど古城小学校への視察っていうふうに出たと思うんですけども、我々青少年相談員の中でも、この検討委員会で新設校に関する安全性っていうところ、子ども達の安全性っていうのは青少年相談員の中でも、とにかく何が何でも最優先事項だっていうふうなことで話し合いをしてきた中で、1月1日に発生しました能登地震っていうものを目の当たりにしてしまって、あれを見る前に安易に決議をしてしまったんじゃないかっていうことを大変反省をしておりました。

古城小学校に通ってる地元の方以外の方がその小学校に出入りするっていうことが、やっぱりなかなかできないことですので、萬歳小に通ってる方々もそうだと思うんですけど、なかなか古城小学校に立ち入ることってできないかと思うんですよ。ですので、できれば是非一度、場所決定とかをする前には、一度その現地確認、設備の確認等をさせていただくと助かるなと思うんですけども、是非よろしくお願ひいたします。

集団での視察っていうのが困るっていうことでしたら、何グループかに分けて対応するっていうような方法も検討していただくと助かります。よろしくお願ひします。

○事務局　ご意見ありがとうございました。

事務局の案としましては、第3回目ぐらいで古城小のほうで会議をするということで、ちょっと校長先生と協議をしております。ただ、会議は夜間、同じような時間帯になりますので、ご心配してるその斜面等はちょっと見づらかなかというふうな形にもなろうかと思えますので、学校側のご都合もあろうかと思えます。その辺はよく調整をさせていただいて、事務局の方でなるべく昼間に視察ができるようなということで、ちょっと協議をさせていただけたらと思えます。

○会長 そのほかご意見のある方。

○委員 ちょっといくつか質問したいことがありますので、私用意したものがあって、ちょっと1回配らせてもらってもいいですか。

(委員が用意した資料配布)

○委員 今お配りしたのは、以前の教育委員会の会議での議事録になります。

それで質問としましては、合併に関しまして、古城小学校は実際何年存続できるとお考えですか、以前何度か質問したと思います。それを踏まえまして、令和5年11月の教育委員会の定例会議で、委員からの質問に対しての説明というものがあまして、その中に干潟地域に一つ小学校残すことを踏まえ、旭市独自の下限値を設けました。小学校については一クラス20人以上という下限値を設けております。20人以上いればある程度のグループ活動は子ども同士で切磋琢磨し、学習活動できるということで決めたところです。統合して30年から40年ぐらいは継続できると見込んでいますという回答がありましたが、本当に30年、40年とお考えですか。

以前、この場で話された話とは違うようなものが答弁されているようなんですけども、その辺を教えていただけるとありがたいです。

○事務局 この11月の教育委員会定例会で、旭市独自の下限値として小学校は一学年20人程度としているということでございます。学校再編基本方針概要版の4ページに統合校の児童生徒数の推計があります。こちらは⑤干潟地域小学校、2020年で合計306人、236人、199人と推計で下がっていくんですけど、2050年は125人となっています。これを6で割ると20人は超えているかなというところでございます。

今後30年程度先が2050年ですので、2050年頃まではこの20人、一番低い数ですね、確保できるのかなと。干潟地域が一番少ないので、他の地域はもうちょっと遅くて、2060年でも1学年20人以上はあるということですので、概ね30年から40年ぐらいはこの下限値を確保できるのではないかということでお答えしたものでございます。

○委員 まあこの推計値で見るとそうなってはいますけども、実際の所どう思われていますか。この推計値のようにいくと思われていますか。

○事務局 こちらの学校再編基本方針を出した時は、平成27年の国勢調査を基に、社人研と言って国立社会保障人口問題研究所、こちらは人口推計などをしているので、それを基に出している数字です。人口推計するにあたっては、こういった社人研の人口推計が一番信頼できるというか、今のところそういうふうに使われています。ただ実際にはその30年、40年後

が実際どうなのかっていうのは分からない部分もあるかと思います。例えばコロナで、コロナ前に人口推計してますので、コロナの影響とか、社会情勢の変化とか、子どもの数がこれより多くなる場合もあるでしょう、少なくなる場合もあるかもしれません。それについては、今の段階でこれが当てにならないということにはならないと思います。今信頼できる人口推計ということで、これを基に、こちらの基本方針については、やはりこのような会議でいろいろな方々の意見を聞いて決めたものですので、ご理解いただきたいと思います。

○会長 そのほか。

○委員 今の件につきまして、私、記憶が定かではないと言え定かではないのかもしれませんが、これ検討会議と2022年の学校説明会で、一体この統合小学校っていうのは何年持つかっていうのは度々議題に上がってると思うんですよ。

2022年にこの話題について触れられた時には、確か若い担当の方、今すでにこの席にはいらっしゃらない方だったと記憶してるんですが、統合のわずか4年か5年で再統合の検討しなくちゃいけないかもしれないというふうに説明を受け、当時のPTA会長さん達が非常に驚いて、じゃ、小中一貫校じゃないといけないんじゃないかっていうような議論を始めたっていうのを私覚えております。それで検討会議の時に再度この質問をさせていただいて、その時はどなたがお答えになったか、ちょっと記憶してないんですけども、15年から20年ではなかろうかというところで説明を受けています。

この議事録をちょっと見させていただくと、30年から40年、これ一体我々どれを信じて話を聞いていけばいいのかなっていうので、今のこの30年から40年っていうのが正式な回答だと思ってよろしいのでしょうか。

もう一言ちょっと付け加えさせていただくのであれば、もしこれ担当されてる方が、皆さん答弁されてる方が違うんで、担当者間の意思疎通ができていないんだとすると、それも問題だと思いますんで、できればこの場できちんとはっきりさせていただきたいなと思っております。

○事務局 説明の方が多少違ったニュアンスで捉えられたかなと思いますが、基本的には先ほどの議事録の方は、旭市全体の話でありまして、地域検討会議は干潟地域だけの話なので、先に申しあげました30年、40年、おおよそですね。小学校についても120人以上が確保できているということで、旭市全体としては30、40年後までは120人っていうか、1学年の20人程度は確保できるんじゃないかというような回答を、教育委員会の定例会ではしているところでございます。

この干潟地域の各地域検討会議で、学校がいつまで持つのかとか、そういったお話になったこともあるかと思いますが、それにつきましては、例えばこれから議論をして、統合までに3年から5年かかるわけですね。その期間を含めると30年じゃなくて25年になるとか、そういったこととお答えしたのかなと思います。

○委員 25年から30年、40年かはわかりませんが、今のが正式な回答ということで理解してよいということですね。

再度お伺いするんですけども、干潟のこの統合した古城小学校っていうのは、これからの経過時間を含めて30年から40年という理解でいいということですか。

○事務局 今申し上げられるのは、この学校再編基本方針に載っている人数の推計値ですので、これでいけば2050年で125人ですので、1学年の20人以上は少なくともこの推計でいけば確保できるということで、2050年までは確保できるんじゃないかということに、数字上はなると思います。

○会長 そのほかご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

○委員 中和小の皆さんすごい活発な意見が出てます。

今回3校が一緒になって、合同の会議ですけども、それぞれの地区で3回、4回とか会議をしてきてここにいます。

先ほど、任期が変わって4月以降に人が変わるっていうことになるのと、変わった人に対してまた一から説明しなきゃいけなくなってしまうのかなっていうのもあるんで、やはりこの任期中に基本方針は決めた方がいいのかなと思っております。

それぞれの学校のアンケート結果を見ていると思いますけども、どちらを取っても90%以上が確か賛成だったんですよ。なるべく早く合併したい。中和小と萬歳小については、確かもう数年したら複式学級になってしまうんだよっていうこともあった。だからそういうのもあったから早くしたいんだよっていう話もあるし、古城小としても、やはり人数多くて友達が増えるとか、地域活動とか行事ができるよかっていうことで、それぞれの小学校が、全てのものにスピーディーに進めてほしいんだよっていうことが書いてあるんで。

皆さん色々協議はしているんですけども、やはり焦るわけではないんですけども、子ども達のことを最優先に考えた時には、やはりみんなで力を合わせて早く進むように進めるのがいいのかなと思っております。

○委員 私も今の意見と同じことを感じておまして、まずまとめていただいた資料を拝見すると、中和小、萬歳小、古城小、皆さん一貫しているのはスピード感を持って進めていた

だきたいっていうところ。

最初その任期が変わるので決を遅らせたいという話もあったかと思うんですけど、その任期のことを考えていると、結局毎年毎年、誰かしらが任期が変わっていくわけで、もう切りがないのかなっていうところを思っていて。であれば、ある程度検討会議で話をしてくて私たちここに臨んでいるので、今の段階で決を取るっていうのは選択肢としてはありなのかなと思います。任期のことを考えるのはちょっとナンセンスなのかなと思っています。

あと、今後何十年後の話が今出てるかと思うんですけど、そのことを見越して今の段階でもっと広域で統合を考えた方がいいのかって意見も、私の父親なんかもよく言ってるんですけど、それも一つの意見としてはあるとは思いますが、ただ30年後の話って絶対誰も分からないところではあって、もしかしたら移住者がすごく増えて人口が増えるかもしれないし、逆にどんだん子どもを産む人数も、全体的に子どもを産む人数が減ってきてしまっているんで、少子化がこのまま進んでいって、また統合っていうことを再度検討していかなければいけないということもあり得るかもしれない。

ただ今の段階で考えた時に、もう現状こういう少人数の学級になってきていて、皆さんの意見がスピード感を持って統合に進んでいきたいっていうふうに動いているのであれば、そちらの方に舵取りをしていった方が有意義なのかなと思っています。

○会長 そのほかご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

○委員 これなんか俺はもう市が焦っちゃってるようにしか感じなくて、こんな今日いきなり来て、はい、なんかもう決めますよみたいな、もうちょっとせつかくこうやってお話できる機会があるのに、いきなりもう決を取って、不信感しかない。なんかもうちょっと話し合いの場を持たないのかなっていうか、スピーディーにしておっしゃいますけど、絶対来年にはできますよ。来年にはみんな手を挙げると思います。だから言ってるのは、次に引き継いだとて、きっといい方向に俺はいくと思います。だから、今日初めて顔合わせたのにいきなり決めちゃうなんて、なんでこんなに焦ってるのかなというのがあるんで、ちょっとそこは理解できないかなと。

○会長 ありがとうございます。

ちょっと事務局のほうに質問です。今日は採決を取らなくても大丈夫でしょうか。

○事務局 先ほどちょっとお伝えしたんですけども、必ずしも今日決めていただきたいとかそういったわけではなくて、皆さんのお話し合いの中で、その決めるタイミングというのは決めていただくのが一番いいと思います。そういったところで今日なんでかんで決めていただ

く必要はありませんので、決めるタイミングについては皆さんで決めていただければと思います。

○会長　今事務局のほうからございましたが、今日決を取る必要もなく、次回ということもできます。なので、ほかにご意見ある方がいれば、ぜひこの場で発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員　今日この場に来て初めて顔を合わせた中で議論をして、皆さんがいろんな質問をして、色々答えてっていうのを聞いていると、感じることは、すごく殺伐としてるなっていう感じを受けます。誰が悪いとか、誰が言ったとか、誰がどうこうとかという話よりも、自分たちの子どものことを第一に考えて、どうしたら未来に繋がるかっていうことを、前向きなことを話す場だと思うので、もうちょっと意見もプラス思考で考えていただければなと思います。マイナス面はいろいろ出して消化していかなきゃいけないのはこの場だと思うんですけども、意見を交わすこういう場を殺伐としてしまうと、余計もつといい意見が出てこなくなってくるので、もう少し皆さんの意見をどういう風な学校にしたいとか、子ども達の未来のことを考えて統合に向けて話を進めていけたらいいんじゃないのかなと今感じました。

それで、初めて顔合わせの方がほとんどなので、まあ決を取るっていうよりは皆さんが今どう思ってるのかなっていうのが、私の感じてるところです。なので、中和小の関係者の皆さんは大体今までの会議の中で、こうしていきたいっていう話の感じは受け取れるんです。どういうふうになってほしいなっていう感じを受け取れるんですけども、例えば古城小の保護者の皆さんだったりとか、萬歳小の保護者さんの話だったりとか、そういう会議に私たちは出ていないので、どういうふうなのかなっていうのが正直な私の感想です。

なので、何か決を取るとか、これを決めるとか、もちろんスピーディーにやっていかなきゃいけないんですけど、今皆さんが感じてることはどういうことなのかなと私は感じました。

○会長　今、何人かの方がやっぱりちょっと決を取るのは時期尚早だというようなご意見もありました。

今日は第1回目ということもありますので、顔合わせということもあります。なので、今日はできれば決は取らないで、それはちょっと次回以降に考えていきたいかなと思うんですけど、皆さんいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは次第のほうには議案1号、2号って入ってますけども、今日は1回目ということで、まずは皆さんの意見を聞きたいかなと思います。ですので、まだ

ご発言してない方いれば、ご発言をお願いしたいんですけども。

どうでしょうか。まだ何かお聞きしたいこととか、疑問があること。

それではせっかくの機会なので、お一人ずつご意見をいただければと思います。順番で申し訳ないですけども、中和小学区の方から、ちょっと一人ずつ。今日はちょっと意見を言う場としたいと思います。

○委員 私もこの統合自体は必要なものだと、本当に思って、今ここに臨んでいます。いろいろと遠回りの質問だとは感じるかと思うんですけども、この先の子ども達に直接関わってくることなので、聞きたいことはまだあるんですけど、この先また議論を深めたいと思います。よろしくお願いします。

○委員 私が思っているのは干潟地区に学校を残すこと。それだけ。干潟地区に学校を残す。絶対にやってほしいです。なんかもうなくなってしまう感じがして、全部まちに取られて、干潟町何にもないよみたいな、そんなところに住みたい人いますか。農民しか残らないですよ、本当に。そういう町にしてほしくない。だからきっとよそのところでも、ああだこうだ揉め合っているところがあるんじゃないかと思います、統廃合についてですよ。本当にもう市の皆さん大変だと思うんですけど、俺がやりたいことは干潟町に絶対に学校残す。ただそれだけ。その思いだけです。これは本当に向こうに行ったからって学校残るとは限らない、全部取られちゃう、まちに。バスで行ってくださいと、絶対そうなります。だから俺はここで何とかしたいです。

○委員 私としては、元々私自身の地元が旧旭の方なので、まちに取られてしまうっていう感覚と、あと色々こう今まで自分が旭市にいた頃と旧干潟町側と、その両方の気持ちも、何となく思ってることも、何となく最近分かるようになってきたんじゃないかなと思っていて。自分の意見というよりは、まず今子どもが置かれてる状況を見て、もっと私としてはいろんな人と、いろんな子どもと、いろんな大人と、いろんなじいちゃんばあちゃんと接して、いろんな多様性を持って育てて欲しいというのが私の子どもへの気持ちなので、子どもにとって色々な人と接する機会のある小学校ができたらいいなと思います。それを考えると、少しでも人数がいた方が子どものためにはいいんじゃないのかなと感じています。それが早かったら尚いいなと思います。

○委員 まずこの統廃合に向けてスピード感を持ってっていうのが、一番最初に書かれていることではあるんですが、先ほど30年、40年先を見据えた統廃合だっていうことありましたので、スピード感は大事ですけど、焦る必要もないんじゃないのかなと。長いスパンで見れ

ばね。二、三年先の話を急いで決めるわけじゃないので、スピード感とちょっと相反しますが、慎重にもうちょっと何か詰めるところもあるんじゃないのかなと思います。

○委員 今日話を聞いていて、最初教育長の話にあったように、やっぱり子ども達にとってより良い学校を提供したいっていうゴールは同じなんだなっていうことを感じています。ただ、立場によって今本当に通わせるお子さんが家族にいらっしゃる方もいれば、そういうお子さんは家にいないけど、この先の干潟地区、自分の子どもが親になった時の未来を想像した形で、地域の発展まで考えられている参加者の方がいると。まずはその思いというのを共有することで、より良いゴールが見えるのかなっていうふうに思います。難しいことだとは思いますが、スピード感を持ちながら、やっぱり学校っていうのは地域にとって本当に大事なところだから、その大切な学校についてみんなで意見を出し合っていきたいなと思っております。目の前の子ども達のためにどうぞよろしくお願いします。

○委員 先ほどからの厳しい発言大変ご容赦ください。私自身は青少年相談員っていう役割を福祉関係で負っておりまして、私個人の考えと、あとその地域を代表しまして、その地域の方からの陳情等も受け付けております。ですので、地域の方からこれだけは聞いてきてください、これだけは何とかしてきてくださいっていうふうな話も私自身を請け負ってこの場におりますので、その部分私の個人的な思いとは別に果たさなければならない役割があったというところで、厳しい発言ご容赦いただけると助かります。

私自身、干潟中学校で教育実習をしまして、その時に中和小学校に派遣されて、交流等させていただいて、非常に小学校、中学校思い出深いものになっていますので、子ども達のことを考えて、一番いい統廃合っていうのができればいいのかなっていうふうに思っております。また、いろんな方の話を聞いていく中で、私自身非常に感銘を受けたことなんですけれども、確かに今通う子ども達の学校なんだけれども、結局小学生の子達が大人になった時に子育てをする場っていうのが、この統廃合、20年から30年持つと言われてるんで、その子ども達の子育ての場をなんとかこの地域に残してあげて、高校、大学等でお家を巣立っていられると思うんですけれども、またこの地域に帰ってきて、自分達がこの場で子育てができるような環境っていうのを、この地域で残せていけたらなっていうことで、この統廃合っていうのを考えております。

ですので、いろんな情報、先ほども厳しい意見何度も言わせていただいたんですけども、やはり情報っていうのが日々更新されてて、新しい情報っていうのが常に入ってきます。

例えば、北中学校っていうのが当初、小中一貫っていう形でできるよっていうことで、古

城小学校からひょっとすると早い段階で小中一貫校の北中学校っていうところに移動できるのかなって話、説明会においてはひょっとするとできないかもしれないというような情報が入ってきてみたり、我々日々情報のあれに苦慮しています。そういったところで、日々職員の方々大変ご苦労なさってると思うんですけども、より良い未来を子ども達のために選択していただけたらいいかなというふうに思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

○委員 私の子どもは4歳なので、複式学級は避けたいなっていう思いもありつつ、やっぱり学校の安全性、土砂災害とか起きたらどうなるのかなとか、そこはもっとしっかりやってほしいかなっていう思いがあります。

あとは干潟地域は過疎化なので、やっぱり何もないかなっていう印象が私的にはあるので、これからは合併になった後も、何か新しい施設ができたらいいなと思います。よろしくお願いたします。

○委員 11月まで地域検討会議の委員やらせていただいて、旧干潟町の3つの学校が統合せざるを得ない。その背景にやっぱり児童数が少なくなってきていると。例えば私の地元の中和小であれば、現在の4年生が1桁、7人しかいないというようなことで、この状態があと数年続いたら複式学級にならざるを得ないと。それはなんとか避けたいと。だからその統合を大賛成してるわけでは決して皆さんないと思うんですね。大賛成じゃなくて、やむを得なく統合しようという形。先ほどの報告書にありましたけれども、賛成もしくはやむを得なくて書いてありますよね。だからその大賛成ではないんですよ。

子ども達の社会の見るその範囲って言うんですかね、まあ認識する範囲っていうんでしょうかね、それはやはりあんまり大きくては無理があると思うんですよ。だから人数が多ければ統合しなくて、現在の中和小、萬歳小、古城小のままで私はちょうどいい規模、ちょうどいいエリアの面積で、その子どもさんの背後には保護者の方がいらっしゃって、その保護者の方々も中和地区、萬歳地区、古城地区、昔ながらの伝統を持った、かつて樺の海だったところを干拓して、今干潟八万石っていう言い方で田園地帯になってますけれども、その地域もしくはその高台の地域で旧干潟町があるわけですよ。それを3分割して、旧萬歳村、中和村、古城村の1校ずつの学校がやはり規模的には一番いいんじゃないかと私思うんですよ。

でも児童数が、先ほど申したように複式にせざるを得ないと、一人の担任の先生が複数の学年の生徒を同じ空間で教室で教えると、教科書違うんですね。片方は例えば3年生の教科

書、片方は4年生の教科書を使ってる。同じ時間に。それ考えた時にそれはやっぱり避けなきゃいけないから、まあ統合はせざるを得ないですよ、ということで私なんか賛成してるんですよ。統合に向けて賛成してるんですね、地域検討会議の時には。

だからそこはやっぱり忘れてはならないことだし、むやみにその大きな学校にしたらいいかっていうと、それは中学、高校、上は大学とありますけど、段々年齢に沿って、人間は世界が広がってきますから。だから子ども達にとって、特に一年生、小学校、保育園や幼稚園から一年生に入学したばかりの新入生達っていうのは本当にまだ子どもさんですよ。ですからやっぱり規模、地域の広さ、そういうのはやっぱり大事だと思うので、そのところは我々は忘れてはならないことだろうと思います。

ですから結論は早く、その大方の結論はそれぞれの地域で出ていますから、そんなにここで決を早く取ってね、先に急ぐことは私はないと思います。かといってもそれだけじゃなくて、やっぱり差し迫ったものでもありますから、スピードを持たざるを得ないんだと、そういう感じもします。

あと話変わります。他の地域、切羽詰まった問題が萬歳小や中和小にはありますので、他の地域に先行して地域検討会議が始まりました。他の例えばこの近隣ですと共和小もしくは琴田小とか、その地域の現在の検討状況はどうなってるかは質問したいなと思っておりますので教えていただきたいと思います。以上です。

○委員 再編に関することの要望としましては2点要望させていただきます。

まず一点目です。萬歳小の検討会議の際にも地元で学校がなくなってしまうことの寂しさを嘆いていらっしゃる方がたくさんいらっしゃいました。そういった地元の方の学校を地域に残してほしいという思いを汲んでいただきたいです。

二点目です。現在萬歳小も一桁のクラスが発生しております。さらに保育所になりますと10人を下回る学年が多数出てまいります。そういったことを踏まえて、友人関係や学びの場が固定化するのではなくて、人数や地域が広がることで教育活動の充実を進めていただければと思います。

あとは二点ほどこの会議の進め方に関する要望をさせていただきます。

まず一点目です。資料に関しましては事前に皆さんが読み込みをしていただければ、会議の時間がより短縮化されて効率のよい会議が進められると思いますので、事前に資料の配布をしていただければなというふうに思います。

二点目です。小さいお子さんを抱えていらっしゃる、お母さんに限らずお父さんもいらっ

しゃると思います。ですので、大体でいいんですが、会議時間の終了の目安というのをお伝えいただくか、もちろん協議が白熱して延長される場合はあると思うんですが、大体の目安を教えていただけると、皆さんこの会議の中での協議の仕方というのが変わってくるかと思うので、この二点を要望させていただきます。

○委員 1年生、3年生、5年生の母をしています。萬歳地域の中では意見がありました。大人の意見というのもたくさん出ました。でも最終的には子ども達がいろんな子どもと関わりたいという意見が尊重されて、今この場に来ているというふうに考えています。ぜひ子ども達のためにより良い環境を私たち大人が協力して作っていききたいなと思いますので、よろしくお願いします。

○委員 統合をスピーディーにしていけないといけないうことで、子ども達のことを最優先で、大事なことだとは思っています。けどこの寂しさっていうのが、実はこの会議とかに参加してからはずっと続いていて。本当に小さい時から、自分の学校なんだけど、生活の一部のとこだったんで、実は意外に家も近かったっていうことで、学校のことをよく知っているほうだと思います。

それで、子どもたち、自分たちも育ててきて、萬歳小って、萬歳の地域って本当熱いかもしれないですよ。だから本当はずっと残してもらいたい学校の一つだったんだけど。でも、アンケートもね、やむを得ないっていうところの一人だったんですけど。でも賛成っていう流れでもう始まっていますので。

ただ、今後の地域の活動の活性化に繋がるようになっていう意見が萬歳の方では検討していただきたいっていうふうに話がまとまったので、元気のなくなっちゃう萬歳にしたくないので、そこら辺はちょっと、小さい子がいたら本当に元気出るじゃないですか。そこを失ってしまったっていうことで、将来性がなくなっちゃうかもしれないから、できたら先のことを考えるってことも、本当に検討してもらいたいなと思っております。

○委員 萬歳小の会議の時も、学校がなくなる寂しさとか、辛さとかっていうこともありますし、なんとか旧干潟町の中心部の方に学校ができないかなっていう意見があったんですけども、最後には皆さん、やむを得ず統合には賛成ということで進んできました。

やはりこの場でお話を聞いてると、日本全体の過疎化とか少子化の問題が大きく横たわって、いよいよ私たちのところにも押し寄せてきて、数年後には複式学級ができてしまうっていうことを考えますと、学校を統合して準備期間というのがある程度必要ですので、ある程度スピード感を持って提案するというのも、学校関係者として理解しているところです。

簡単に統合っていうのは、パッとできるもんじゃなくて、様々な準備が伴います。3校を統合するんですから、やっぱり萬歳とか中和を切り離して、こちらの地域に全くっていうわけではなく、やはり子ども達がこちらと関係あるようなこと、教科手順など考えなきゃならないようなことも、考えなきゃならないし、通学のこと、様々なことがあります。ただやはり地域に学校がなくなって寂しさっていうのは、もうこのどうしようもない部分っていうか、辛さっていうのはよく分かるところです。

ですので、中和小の方からたくさんそういうご意見が出たっていうのは十分頷けるところであります。ですので、身動きができなくなっちゃう部分がやっぱりあるんですけども、まちづくりっていう視点がどうしても出てきて、自分の地域から学校がなくなることをどう乗り越えていくかってことはすごい大きな問題と、跡地利用の問題もそうですし、普段子ども達がいたところの、通学の姿が消えていくっていうところを乗り越えて、どうやって地域を活性化するっていうところは、ある意味政治の問題が入ってきちゃうと思うんですよね。

そうすると、やはりオール干潟でいくとすると、統合はもうやむを得ない。すぐにじゃなくても、やがて統合が来る。でも来年、再来年ではどうかではないんだったら、街づくりのこともやっぱり考えていって、いいチャンスじゃないのかなと私も思いました。

今日は真剣な、率直なご意見をいただいたことは大変私も参考になりましたんで、市の立場もやはり十分理解できたと思います。玉虫色なんですけども、この機会にまちづくりのことを話し合っ、この干潟の地域をどうやって活性化していくかってこと、人を増やすとかっていうことをみんなで考えていく機会になればと思います。

○委員 地域検討会議から参加しておりますけども、皆さん総論はもうやむを得ないという思いだとは思いますが、その地域、今回の案だと古城小に統合ということなんですけれど、なくなる萬歳とか中和地区は、要は地区としては小学校がなくなってしまうということで、福祉の立場から言っても、地域の高齢者の方とか、小学校に運動会とか、孫かひ孫かわかんないですけども、運動会に行くとかね。そういうのも歩いても行けた地域にあったのが、今度はもう車がなければいけないっていうことになってきますんで。子ども達が第一ですけども、保護者の方も複式学級とかじゃなくて、大勢の仲間と一緒に勉強してもらいたいという思いも地域検討会議でも出ておりますし、統合するなら早くしてほしいという意見もございました。

ですので、その辺子ども、保護者、それと地域に住んでいる、もう過疎化してますので高齢者が多いですけども、それもやっぱり小学校に行けるとか、実はこの前萬歳小の子ども達

の意見発表会に参加して、元気な子ども達を久しぶりに見たなっていう、私もあんまり小学校に行く機会が少なかったんで、これからそういう地域の孫がいるとかね、高齢者も行ければいいかと、今まで通りですね。そうすれば市のほうでもそういう学校の行事とかある時に、そういう高齢者に対しての手立てが、学校に行く機会とかを考えてもらえたらなと思います。

これから県全体でも人口減っていくんで、東京の一人勝ちですから。地方はどんどん人口が流出していっちゃって、減っていくのはもうこの予想通りになるかは分かりませんが、致し方ない現実があるだけで、政治の方も確かに少子化対策ってやってますけども、基本的には子育て対策でしか手が打てないですよ。どうやって子どもを増やすかっていう手立てが全くなくて、ただ子育ての支援のみが今用意されてますけども、その辺市立単独でもなかなか難しいと思いますけども。千葉県で流山市だけがゼロ歳から10歳の子どもが、70歳から80歳の老人の人数を上回ってるって聞いてます。流山市は子育て対策をかなり熱心にやって、東京から近いっていうこともありますけども、これを議論していくと切りがないんですけども、高齢者のこともご理解いただきたいと思います。

○委員 皆さんととてもいい意見、ごもっともな意見があったので、私からは意見っていうのは特段ないんですけども。ちょっと聞いた話で、通学用のバスの話なんですけれども、朝晩のバスって儲けが薄いらしいんですよ。だからやりたがらない業者が多いっていう話をちょっと小耳に挟んだので、ちょっと気が早いかもしれないんですけども、この会社やりそうだなとか、この会社に頼めるかなみたいなものをちょっと調べしといた方がいいのかなと感じたので、それをちょっと事務局の皆さんにお願いしたいなと思います。

○委員 最初に謝らせていただきたいのが、すみません、最初いろんな意見が出てきて、今回地域検討会で一步進んだものが、なんか後ずさりしてしまった印象があって、先ほどのような意見になってしまいました。しかもちょっと言い方もきつかったなっていうところがあって、そこは申し訳なかったです。

今現在小学校低学年と年長と3人を育てている状況で、どの子のクラスもみんな10人、7人とか本当ひと桁なんですよね。これがやっぱり人数が少ないことでできなくなってきたこと、選択肢として上がってこないことが増えてきてしまっていて、そこはすごくもっと子ども達にいろんなチャレンジだとかきっかけだっていうところは持ってほしいと常々思っているんで、どうしても統合っていうところにスピード感を持ってっていうことをさっきから何回も言わせてもらっちゃってるんですけど、思ってしまうところではあります。

あとはその統合をきっかけに、学校の運営の仕方だとか、教育方針だとか、そういうこと

をすごくいろいろと深めていって、他の地域からもあっちの学校に行きたいなと思えるような魅力的な学校を作っていきたいと思っています。

あとはやっぱり生まれが萬歳なので、地元にはすごく愛着があるので、萬歳の地域が廃れてしまうってことは絶対避けたいことではあると、それは同じく中和の地域もある、もちろん古城の地域もあると思うので、もう本当に地域として寂しくなるんじゃないかと、どんどんいろんな人が集まる手立っていうところも、学校の統合と同時並行で考えていけたらいいなと思っています。

○委員 私もやはり中和小の関係者の皆様と同じように、干潟には学校を残したいという気持ちは本当にあります。ただ、今の現状でアンケートの95%とかがそれぞれ3校が早く合併したいんだよってという意見。それと、あと数年後に複式学級になってしまうんだよっていうのがある。それをどうにか子ども達のためにスムーズに進められれば、例えば今古城小が一番新しいから古城小に合併したとして、数年後に例えば中学校跡地に新しいものを建てるとか、そういうこともできると思うんですよ、将来的には。ただそれが中学校の学区はまた向こうと一緒にかもしれないけども、小学校としてはまた統合して新しいここに建てる機会も出てくるのかなっていうのもあります。

それとあと防災の話、地震とかの話も出てたと思うんですけども、今一番条件のいいのは古城小なんです。萬歳小と中和小は山の中腹とか上に建ってる。確かそういう危険な区域に入っていると思うんですよ。それも考えてもやはり古城小、体育館は確かに山を背負っていて危険なところではあるんですけども、校舎側は周りも田んぼですし、っていうことで安全性的にもやっぱり子ども達のことを考えたら、やはり今回の北陸の方の地震のこともありましたんで、それも含めてスムーズに行けばいいのかなと思っています。

とにかく子ども達のことを最優先にするのと、保護者の意見もやはりそうだったということなんで、それで実際にこれで3年とか4年とかかかって、その段階でもうアンケートに答えてくれた人は半分以上いなくなる状況になってしまうので、アンケートを活かせられなかったのかなってということにもなってしまうのかなと思うんで。そういうことでみんなで協力した中で意見を出し合って、それで意見や要望についてをもっとみんなで色々な意見を出して詰めていくのがいいのかなと思っています。とにかくスムーズにみんなで力を合わせて進めばなと思っています。

○委員 大人が話を進めていかなければいけないっていうのは分かってるんですけども、ここで学校の方で、ちょっと子ども達の意見を、どう思っているかっていうのをちょっとアン

ケートしてみたら、子どもの意見っていうのをすごく分かってあげられるんじゃないかなと思うので、先生達大変なんですけども、ちょっと聞いてあげて、子どもの意見をちょっと重視してまた進めていけたらいいのかなと思います。

○委員 実は私は千葉県内の中で統廃合の状況については、携わったことが過去にありまして、結局教育関係者でありながら、地域の方々がどのように話し合いを進めていくかということについては、どうかなっていうふうに思っておりました。

この代表者会議の前に各学校ごとに再編地域検討会議が行われて、3校とも様々な思いがありながら、子ども達の将来、教育を考えて賛成というような決断をされたということに、正直すごいなと思っています。歴史のある地域であればあるほど、地域の方の思いがありますので、そんな簡単には賛成というふうにはいかないのが多く事例で見られてるからです。

ただ今日お話を伺って、我々教育関係者とする教育の質の確保というのは最優先です。先ほどもありましたが、複数学級で指導するよりも単学級であった方が確実に授業の質が高いんです。ただそれはもう最終的にはあっても、やはり地域の方々の思いを今日は聞けてとても良かったなというふうに思っています。

そういった思いを踏みつつ、我々学校関係者は子ども達の教育を先だけではなくて、今も進めていかなきゃならないと思っています。

もう一点ですね。安全については体育館の下の駐車場、あぁいった学校っていうのは県内でも珍しいんですね。その経緯を聞いたところを実は崖があって、平成17年に作られたっていうのを調べました。また避難地区になっているんですが、その土砂災害については先日の1月1日のことだけではなく、何年前に千葉市でも土砂災害で民家が崩れたことがあって、今、千葉県の中ではかなり基準が厳しくなっています。旭市の方でも同じ古城地区、体育館のほうでも、10年ぐらい前のハザードマップの基準と、5年ほど前に作られた基準が違ってきます。厳しくなってるっていうのを聞いて、昨年度、市の方にこれ大丈夫ですかってことで確認を取らせていただきました。ですので、同様にこの委員の方々には今の古城小学校の地形の安全性ですとか、そういったことを改めてご理解していただいた方がよろしいのかなと思っています。

最後に今回のこともあって、まず子ども達に何ができるかって考えた時にですね、人口が減っていくっていても将来を担う子ども達です。子ども達にはよりこの地元旭市のことについて勉強していただいて、旭市に残りたいとか、旭市をもっと良くしたいってことを進めたいなと思って、今6年生は旭市活性化プロジェクトということで、最後にどんな旭市にし

たいかというのを学習進めています。子ども達がもっと旭市を良くしたいというような気持ちを高められる教育を進めていきたいと思っています。

○委員 先ほどありましたが、資料の配布につきましては、会議の前に配布いただいた方がスムーズな進行になるかなと思います。

統合についてなんですけども、自分はこっちに来てもまもなく30年近くになりますが、上の子どもが卒業して15年目になるのかな、下の子どもが11年、4年違うんですが、それでもやっぱりその時に生徒数が多少減ったんですが、上の子の学年のクラスの人たちと、下の子のクラスの時はやっぱり全然、上の子のほうがすごいまとまりあったんですよ。やっぱり多いほうが、そういう和気あいあいがあっていいのかなと、下の子どもは、ちょっと減った時には、個々にいろんなことをやって、全然まとまりがなかったクラスだったので、やっぱり人が増えて明るく楽しい行事もあって、明るく楽しいような統合になっていただきたいなと思います。

あと最後に、学校を卒業する時に統合してよかったなと思うような学校になってもらいたいと思います。

○委員 統合に関しては複式学級は避けたいのでやむを得ないのかなと思います。だけど、子ども達のことを第一に考えて、慎重に進めてもらいたいなと思います。統合時期が最短で5年ということで、子どもが私中学2年、小学5年、小学1年といるんですけど、もしかしたら小学1年の子が統合後の学校に通うことになると思うので、より良い学校になるように進めていきたいなと思っています。

○委員 中和小の意見であったり、萬歳小の意見だったり、非常に参考になりました。自分ももともと古城地区で育って、社会人になったんですけども、なくなる方の人間としては統合するってすごくやっぱり寂しいのかなと非常に思います。やっぱり干潟地域、これ以上小学校減らさないためにも、少しでも安全で楽しい学校作りがこれからできればなと思っています。

○会長 私の感想としては、まずはちょっと苦しいかなというふうに思います。

干潟町に生まれて、こういう話を皆さんとここですというのは、やっぱり苦しいかなと思います。今まで同じ地域に住んでいて、仲間だという認識もあるので、できれば避けたい、できれば3校残したいという思いもあるんですけども、少子化はやっぱり避けられないというのがまず一つあります。複式学級も避けたい。

あと一つは、安全性の確保が、今の中和、萬歳だとちょっと怖いのかなと。東日本も経験

して、1月1日の能登半島の地震もあります。やっぱり子どもの命は何よりも優先されるべきかなというふうに思いますし、安全性の確保を後回しにはできないのかなというふうに思いますので、スピード感を持ってっていうのはやっぱり大事かなと思います。

ただ、この2時間半ぐらいですごくいろんな意見があったので、しっかり知恵を出し合っ
てですね、せっかくなのでいい学校を作っていきたいというふうには私の中では思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

事務局の方からはどうでしょうか。

○事務局 各員の皆様のご意見の方ありがとうございました。

質問があった回答ということで、事務局の方から回答させていただきます。

まず、他の地域の状況ということで質問ありました。今の状況ですけれども、各小中学校の保護者向けの説明会を今年度に終了をして、できれば今年度内にアンケートを取りまとめた
いなというふうに考えております。

それと資料の事前の配布ということでご意見をいただきました。なるべく資料を整えて事
前に配布をして、会議時間の短縮ということも事務局の方で一定の配慮と、それとご協力
の方いただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○事務局 では、本日1回目の会議ですので、採決はしないで、次回また審議を継続でして
いただければと思います。

次回に向けて、何か聞きたいこと、ご意見ありましたら事務局まで、後ほどでも構いま
せ
るのでご連絡いただければと思います。よろしくお願ひします。

○会長 それでは最後、皆さんの方から大丈夫でしょうか。

それでは、何もなければ本日予定されている議事につきましては全て終了とさせてい
た
だ
きます。議事進行のご協力ありがとうございました。進行を事務局の方にお返しします。

8 その他

○事務局 それでは最後に次第の8、その他ということで、事務局より何点か事務連絡をさ
せ
ていただきます。

○事務局 (事務連絡)

9 閉会

○事務局 それでは質問等ありますでしょうか。

なければ、皆様長時間の会議、大変お疲れ様でございました。以上を持ちまして閉会とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

【閉会：午後9時07分】